

# 新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会  
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

## 第51回国体県予選会終わる

### 県代表

少年は新発田 少年は三条  
成年は朝日山岳会 女子は三条

### T・R種目は個人戦を実施

国体委員長 森 庄 一

4月27日、28日にかけて角田山で実施された第51回国体山岳競技県予選は、県下各地59名の選手団により熱戦が展開され、総合1位に少年男子は新発田、少年女子は三条、成年男子は朝日山岳会が、上位の大会の出場権を獲得した。最初の縦走競技は全員同時スタートの個人戦とあって、規定重量を背に最初から全力疾走する等デッドヒートが展開され、激戦の少年男子個人戦では三条高校選手が1、2、3フィニッシュを飾ったが団体戦では新発田高校が1位となり、少年女子では三条高校が力を発揮した。

にくい地形のせいか定点得点が低かったが、簡単な定点をミスするチームがあり尚一層の努力を期待する。上位大会は7月26日、28日に長野県大田市を中心に北信越国体が開催され、少年男子・少年女子は2県、成年女子は1県が10月に開催の広島国体に出場することになっているので、奮起を期待したい。

今大会に参加の選手、監督、役員の皆様御苦勞様でした。地元巻町当局ありがとうございました。

### 入賞者一覧表

#### ●縦走競技

##### 成年男子

##### 個人の部

- 1位 小池広美 (朝日)
- 2位 小池慶彦 (朝日)
- 3位 潮練俊仁 (高田)

##### 団体の部

- 1位 朝日山岳会

##### 成年女子

##### 個人の部

- 1位 近美千代 (関川村山の会)
- 2位 宮野 朋 (関川村山の会)

##### 団体の部

該当なし

##### 少年男子

##### 個人の部

- 1位 須佐信之 (三条B)
- 2位 石田大心 (三条A)
- 3位 笹川伸介 (三条C)

##### 団体の部

- 1位 新発田高校
- 2位 三条高校B
- 3位 三条高校A

##### 少年女子

##### 個人の部

- 1位 熊谷春奈 (三条E)
- 2位 佐藤玲子 (三条E)
- 3位 高橋 玲 (三条E)

##### 団体の部

- 1位 三条高校E
- 2位 三条東高校D
- 3位 三条東高校E

#### ●登攀競技

##### 個人の部

- 1位 小野良典 (高田)
- 2位 飯沼 聡 (岩広)
- 3位 中山友博 (岩広)

##### 団体の部

- 1位 高田ハイキング

#### ●踏査競技

##### 少年男子

- 1位 三条高校A
- 2位 新発田高校
- 3位 三条東高校B

##### 少年女子

- 1位 三条高校E
- 2位 三条東高校E
- 3位 三条東高校D

##### 成年男子

- 1位 朝日山岳会

#### ●総合

##### 少年男子

- 1位 新発田高校
- 2位 三条高校A
- 3位 三条高校C

##### 少年女子

- 1位 三条高校E
- 2位 三条東高校D
- 3位 三条東高校E

##### 成年男子

- 1位 朝日山岳会

# 平成7年度 指導員研修会報告 ②

指導員会 三 富 一 弥

## 「具体的な例」

冬の事故で雪崩事故がクローズアップされています。雪崩というもののメカニズムについてどういう時に起こるのか、という場合にリスクが大きいのでしょうか、最近研究されて雪氷学会の研究はもちろんですが、登山者の方でも雪崩について学習する事ができ非常に盛んになっています。そのなかで今一番明かになっているのは、雪崩の危険は絶対ということはないが、かなりな所まで具体的な危険性を回避できるようになりました。そういった危険性を認識できる状態にあるのかかわらず、相変わらず登山者の側でそれを知らうとしない、努力しない、それがために毎年毎年安易な雪崩事故が繰り返されている事が指摘されています。安全という知識を知っている、知っていないという事で、大きく自分の命の安全性を左右している。自分だけでなくパーティを組むのでリーダー

がいるわけで、そのリーダーがまるっきり雪崩の知識をもたない人が多い。それは他人を死に直面させているという事を知っているか、知らないのか、知る努力をしているかどうかが今問われています。パーティ編成及びリーダーシップをあげましたが、これはパーティを組むから安全登山ということではない。例えばパーティ編成はいろんな状態がある。分かりやすい例で、岩場のグレードが2級程度の経験しかない仲間同志で組んだ時、そのパーティが安全なのかというところ、2級しか登れないのでそのパーティはだめなのか、という事でない。パーティ全体の力量で登るルート度合いによって、そのパーティがリスクが大きいのか少ないのかでてくる。むしろ技術力の差というよりも、パーティ全体を考えると2級の人、例えば1級か2級の所に登ることは全然問題がないといえる場合、相手の力量を

常に認識できる場合は多分それ程無理をしないというのが普通のパターンです。それを裏返しに考えれば、5級登れる人間と2級を登れる人が一緒に組んだならば、どういいうパーティの力量になるのか。ごくごく考え易いのは5級のリーダーがやっているとパーティは安全じゃないのか。ある程度のリスクのある大きいルートに行っても安全なのかという誤解があります。むしろこの場合の方が問題を多く含んでいる。5級と2級との組み方。5級の人間はやすやすと4級3級を登れるが、2級しか登れない人間がどの程度登れるのか。例えば1歩2歩の岩場を登るとき、その人がどれ位恐怖を感じるのか。

## カムチャツカ讃歌 ⑩

### 大型の蚊とアブの群舞に見送られて

日本山岳会会員 小 倉 厚

翌7月1日、下山の日、新潟県山岳協会旗に全員サインしてロシア側に贈る。朝晴れるも次第に霧が濃くなってきた。そのため予定はたびたび変更されたが、最終的には、荷物は大型トラック

そういった事をキチンと推量できる人間というのはなかなか少ない。例えば自分がリーダーになった場合、メンバーの中に力の劣る者がいた時に、そのパーティ全体としての技量としては、力の劣る者が安全に登れてこそパーティの力量と考えるべきなのです。これは岩登りをやっていると表れるんですが、例えば自分が自信があるとわりと平気で登って、後の人の事をあまり考えない人が多い。自分が登れたから後は大丈夫と考えやすい。力の劣る者が一緒に登れてこそ問題ないことを、初心者講習で指導員に充分注意して指導するように話しをしています。点々とリシリヒナゲシの花が咲き乱れ、まるでオトギの世界を行くようだ。車の軌跡の道から途中で、遠くの緑の中に白く屋根の見える小屋に向かって直進した。全くどこでも歩ける褐色の人跡なき原始そのものの世界、人間とはなんとちいさな存在か。釜のフタのような大きな、カムチャツカヒグマの足跡は幾筋も走り不気味だ。シカやウサギの糞も無数にあるが、姿は全く見えない。同じような位置にある対岸のアラスカには、ヒグマのほかにカリブーなどかなりの大型動物も多く、生息数も多いと聞か、こちらに少ないのは、生存条件がそれだけ悪いのだろう。右上の小ピークに唯一の人工物が見えるのは、火山観測用のものらしい。待望のヘリがやってきた。いったんベースキャンプに向かうが、われわれの姿を認めただか旋回して頭上を越えてチェルダックに去った。これも連絡の悪さなのだろう。もうわれわれはなれっこになつた。RA122513往路と同様であった。われわれもやが

て、這も出てきた緑の森林限界に入った。  
約1時間半でチュルダックへのハイキングは終わった。出迎えのカムチャトインツェリストの職員が大きな手を差しのべた。

ここでも往路と同じように大きな焚火。そして山での最後の食事。ジャガイモと豆(皿)、ゆで卵、紅茶のメニューで楽しいひととき。だがやはり猛烈な、しかも大きな(日本では見られない)蚊に悩まされる。遠くからみていると、みな妙な踊りを踊っているようだ。蚊は人のおいを知っているかのごとくすぐに群がる。少しぐらゐの薬品は駄目で、やはり従来からの蚊とり線香か、さもなければ網をかぶるより仕方がなさそうだ。

昼食後、荷物をへりに積み、ロシア側はトラックの運転手ユリーさんのほか一名を残して機上の人となる。強いローターの風のなか、いつまでもいつまでも二人は手を振っていた。

2時20分、離陸。2時35分給油のため着陸。木材ここはコズレブスク。木材の町の意だという。たしかに

機上より木材がたくさん積んであるのが見えた。今度は小さなアブの大群。しかし滑走路にねころぶと、のどかな異

### 南極だより 3号・4号

越冬隊員 片桐 一夫

(1996・3・17  
ドーム基地 FAX発)

皆さん今晩は。生活も軌道に乗り自分の時間も余裕をもって楽しめるようになりつつあります。

ドーム基地から最近のニュースをお届けします。ついにオーロラを確認しました。3月13日(木)23時40分頃でした。

この日は掘削運番で仕事の終了が22時30分、この後風呂に入り、風呂上がりのさっぱりとしたところで外に出てみましたら、薄くすんだ緑色の編模様があつたという次第です。

それほどきれいではなく感動もありませんでした。また、何しろ短パンとTシャツでしたから、2/3分しか持ちません。しかし、我慢して外でウォッチングを続けていた隊

国の春だった。アレクセイ君は日本語の勉強に余念がない。(長岡新聞より転載)

は広大な雪原のみで、コンパスは偏差が50度以上もあります。つまり、磁石は南極点を指しません。  
帰国してからのため色々なことを勉強中です。現在、気温はマイナス65・6℃です。ではまた。ノ

(1996・3・26  
ドーム基地 FAX発)

日本は年度末、何かとご多忙のことでしょうが、ドームの住人は全く無関係の毎日を消化しております。色々な娯楽の用事のある日本の生活に戻ればきつと立ち往生することでしょう。

日常のオーロラのことですが、これはオーロラオーバルといわれる地域に頻繁に出るもので、このドーム基地はその地域ではありませんが、ほぼ毎夜見ることが出来ます。

先週20日は日本同様ここ南極でも昼と夜の長さが等しい日でしたが、太陽が沈んでその明るさが無くなるのは23時頃で、翌日の明るさが見え始めるのは午前2時頃です。

日中の太陽は雪原線に近く弱くなっているためサングラスはもはや必要ありません。

太陽は4月28日に沈んで再び顔を出すのは8月15日、この間沈黙の世界となることでしょう。せいぜいオーロラを堪能することになります。また南十字星は真上に確認できます。星の数もPNGで見たように極めて沢山見えます。

地球上で記録されている最低気温は、南極ポストーク基地で観測されたマイナス92℃ですが、この標高が3420m。我々のドーム基地の標高が3810m。おまけにこの国の事情でポストーク基地は今年越冬しません。今年の最低気温はドーム基地になる可能性があります。

ドーム基地までの写真記録を未現像で8本、共同通信の稲葉記者に持ち帰って貰いました。4月上旬に届くと思えますのでご覧ください。

現在、気温はマイナス65・1℃です。ではまた。ノ(3月31日オーロラが奇麗に見えた。4月1日の夜の)

(1996・4・28  
ドーム基地 FAX発)  
皆さん今日は。

こちらドーム基地では十年一日のごとく、氷床掘削に明け暮れております。作業は順調に進んでおります。

さて、今日は日常の我々の生活についてお知らせします。

食事は、朝食が7時30分となっていますが、早番の隊員はすでに掘削をしていて、何か食べ物を現場に持ち込んでおり食堂には殆ど来ません。従って割合に自由な朝食となります。パンかご飯を自分で適当に食べます。

昼食は調理担当隊員が作ります。ラーメン、スパゲッティ、親子丼などとバラエティーに富んでおり満足しています。夕食も調理担当隊員が美味しく作りますので良好です。ただし、彼はあまり味噌汁を作らないので、時々粉末味噌にお湯を注いで飲んでいきます。

また、調理担当隊員も週1回は休養日ですので、その日は我々8人が順番に夕食を作ります。ドーム生活で5、6回当番が回ってくる計算になるでしょう。

飲物は、持ち込んだ缶ビールが既に底をつきましたが、ビールキットが十分あります。

ので製造して飲んでいきます。私は、他の隊員が殆ど飲まない「ふなぐち菊水」とか「月桂冠」のアルミ缶をドームビールを一杯だけ飲んだあとに、一本だけ堪能します。標高が3810m(気圧計算では4200m相当)と高く、あまり痛飲できません。まあ、長岡に帰ったら協会の皆さんとゆっくり飲むのが今から楽しみにしています。(冷凍酒ではなく越後の大吟醸を堪能したい。)

風呂は殆ど毎日入ります。ただし、雪を溶かして製造しているため、節水には気をつけております。ちなみに、一日必要量はオール込み500ℓ〜600ℓ程、このため造水槽の雪入れ作業が日課となっております。洗濯も週一回と決められています。

造水システムは、基地のエネルギー源である「いすゞエルフ」用のディーゼルエンジンで発電しているその余熱を利用しているものです。(基地内の暖房も発電余熱利用です。)

発電機の燃料は、軽油ですが毎日150ℓ程消費していますので空ドラムが大量に出ますが、これはこれで利用価値があります。

ドーム基地での娯楽はそれぞれが持ち込んだビデオテープ鑑賞や読書ですが、放送は電波が届かず全く入りませんのでテレビタイプの反復鑑賞専用です。

次に、綺麗なオーロラが見え始めました。今はカーテン状の鶯色が圧倒的に多く、まだ本格的ではありません。やがて本格的に見えましたらまたお知らせします。

ところで、たばこの煙をくゆらせておき、そこに息をふくと吹きかけます。すると、その煙に乱流が生じて渦巻ができます。まさにそれが天頂での光のショーとして見えました。オーロラは、上空80km〜300kmで発生しますから、大変な速さで変化していることとなります。しかし、残念ながらその光は弱いためビデオにはまだ撮影できません。オにはまだ撮影できません。スチールカメラでは撮影できたとおもいます。

うまく現象できれば肉眼で見えない光が写っているそうです。楽しみにお待ち下さい。ドーム生活も3か月が過ぎ、残り9か月。長いようであつという間に終わるかもしれませぬ。

予定では今日から極夜でしたが一昨日から太陽は出なくなつたようです。しかし、朝の7時頃から夕方4時頃までは薄明るい状態です。今は太陽が出ないというだけで全暗黒ということではありませんが、もうしばらくすると朝から晩まで全く星空だけの日々になるわけです。南極の自然や生活のこと、不思議に思われることがありましたら何でもお尋ねください。

今回は「ダイヤモンドの吐息」をお話します。ではまた。

### 中高年登山教室案内

趣旨 高齢化社会にあつて、中高年令者の生涯スポーツとしての山岳遭難防止、その一環としてメンバーストップ・リーダーストップの養成と健康保持・自然環境保全のため一日登山教室を行います。

会場 安達太良山1770m  
期日 8月31日〜9月1日  
集合 新潟市宮陸上競技場前  
31日(土) 11時

## 登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

# 大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736

募集人員 82名  
費用 17000円 交通費・宿泊費・保険料  
問合せ  
坂井 ☎ 025016216647  
加藤 ☎ 025126514495  
中村 ☎ 025126710701  
申込  
郵便振替  
006801816090  
中高年登山委員会宛  
住所・氏名・電話・年齢・血液型を明記する。  
SSFスポーツエイド助成事業です。